

#UiPathForward

電通の考えるRPA戦略

クリエイティビティを自発できる人材創出のために

株式会社 電通 小柳 肇



Why → How → What

なぜ

RPAを導入するのか

なぜ RPAを導入するのか

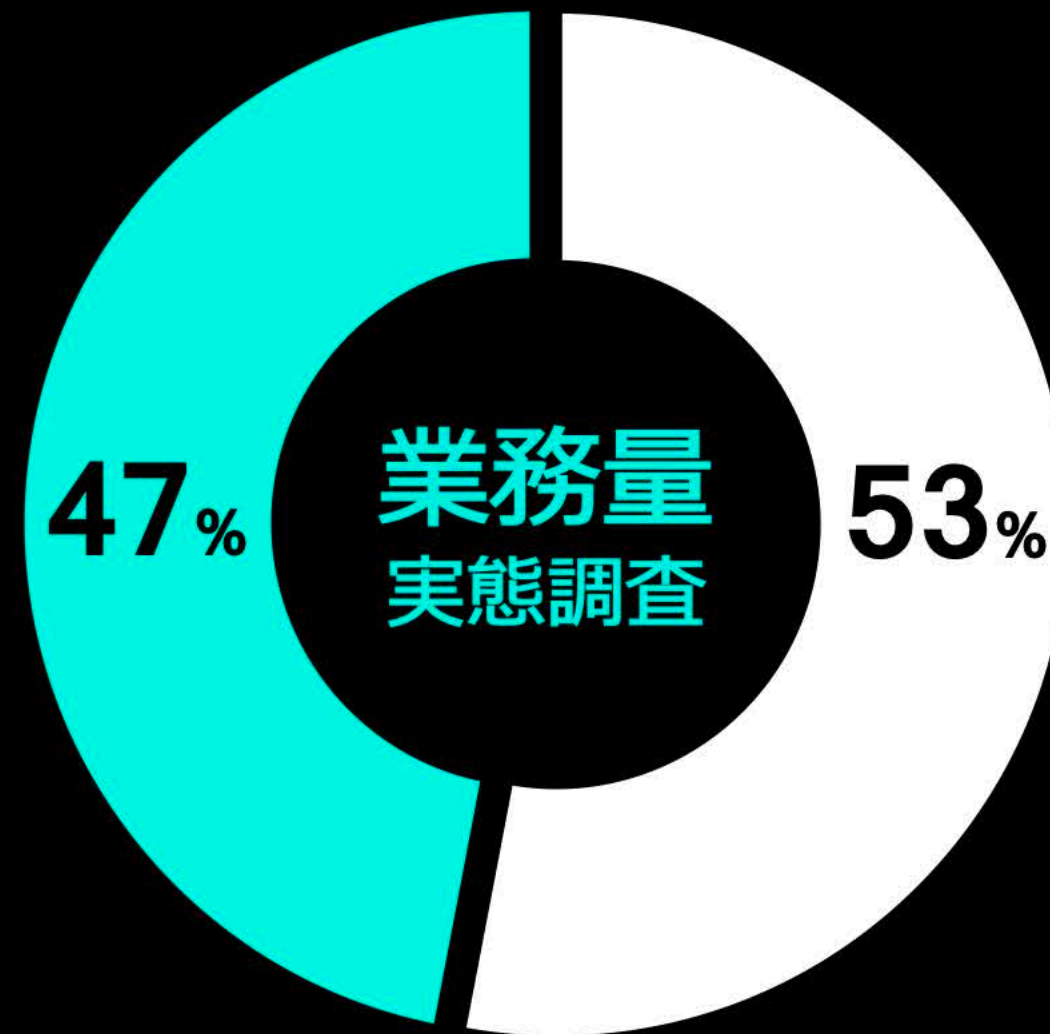
クリエイティビティを 自発できる人材創出のために

支配と統制のマネジメントが有効だったのは、
ゴールとやり方に「明確な正解」があったから

明確な正解がある仕事が
RPAなどの機械やBPOなどのアウトソースに
代替された世の中になると、

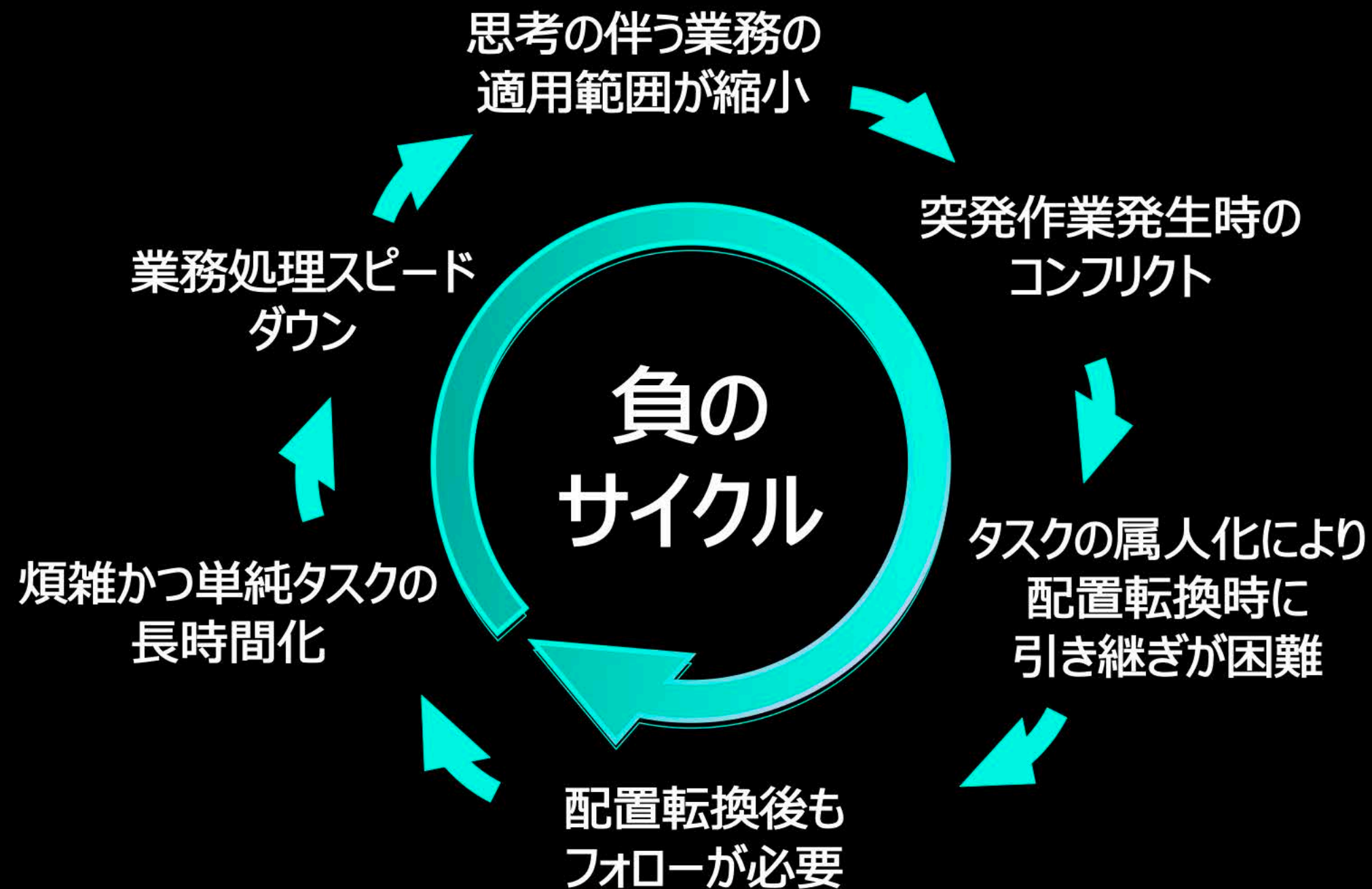
企業価値は、
「不確実性に対峙できる
クリエイティビティを自発できる人材」の存在に
フォーカスされるようになる

RPA導入の背景



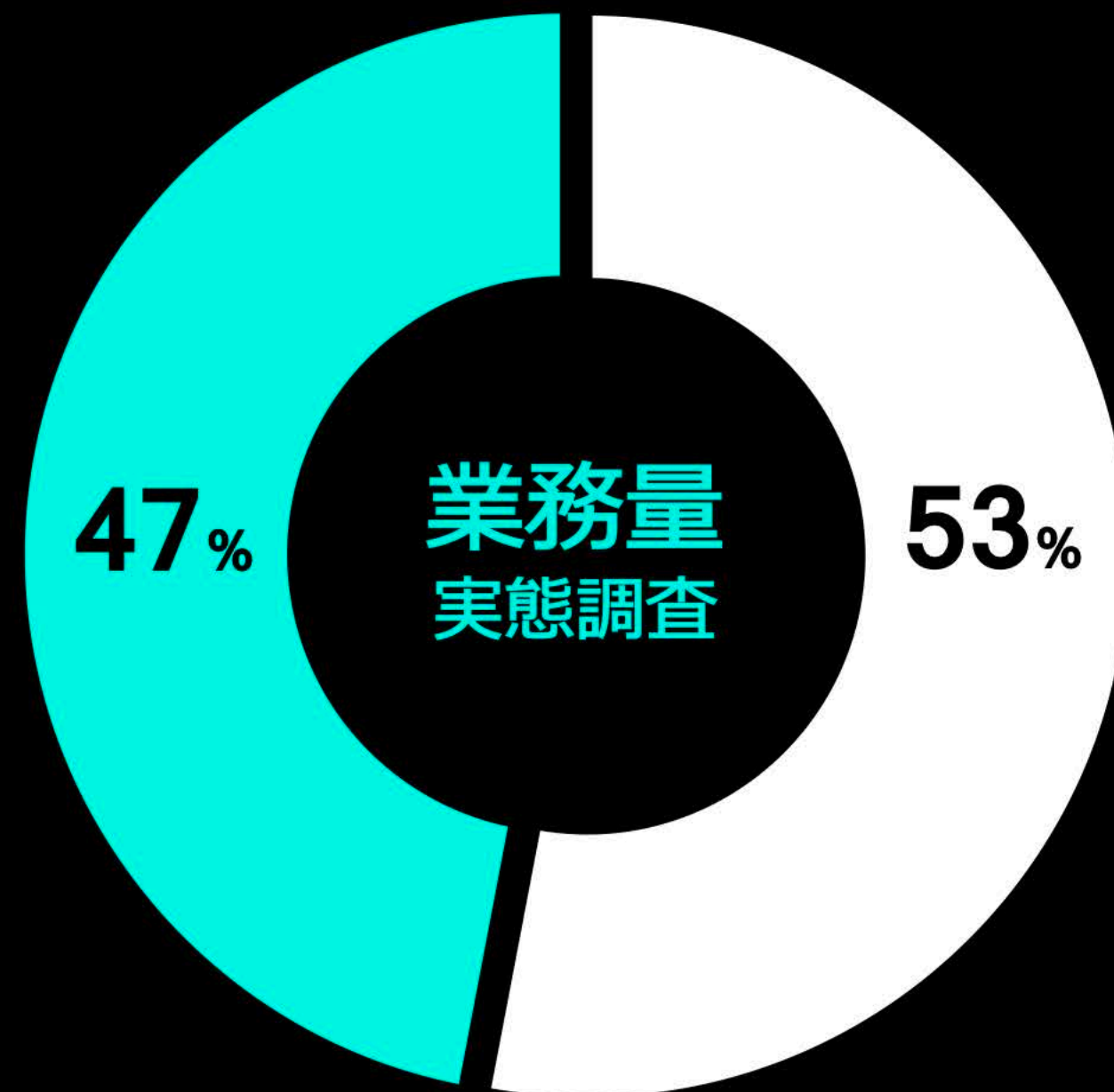
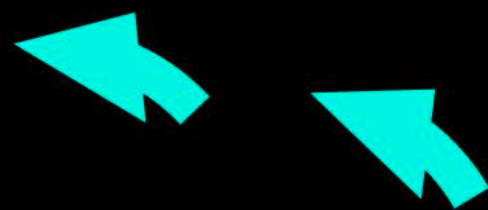
ある部署では
47%がオペレーション業務

オペレーション業務の肥大による 負のサイクル



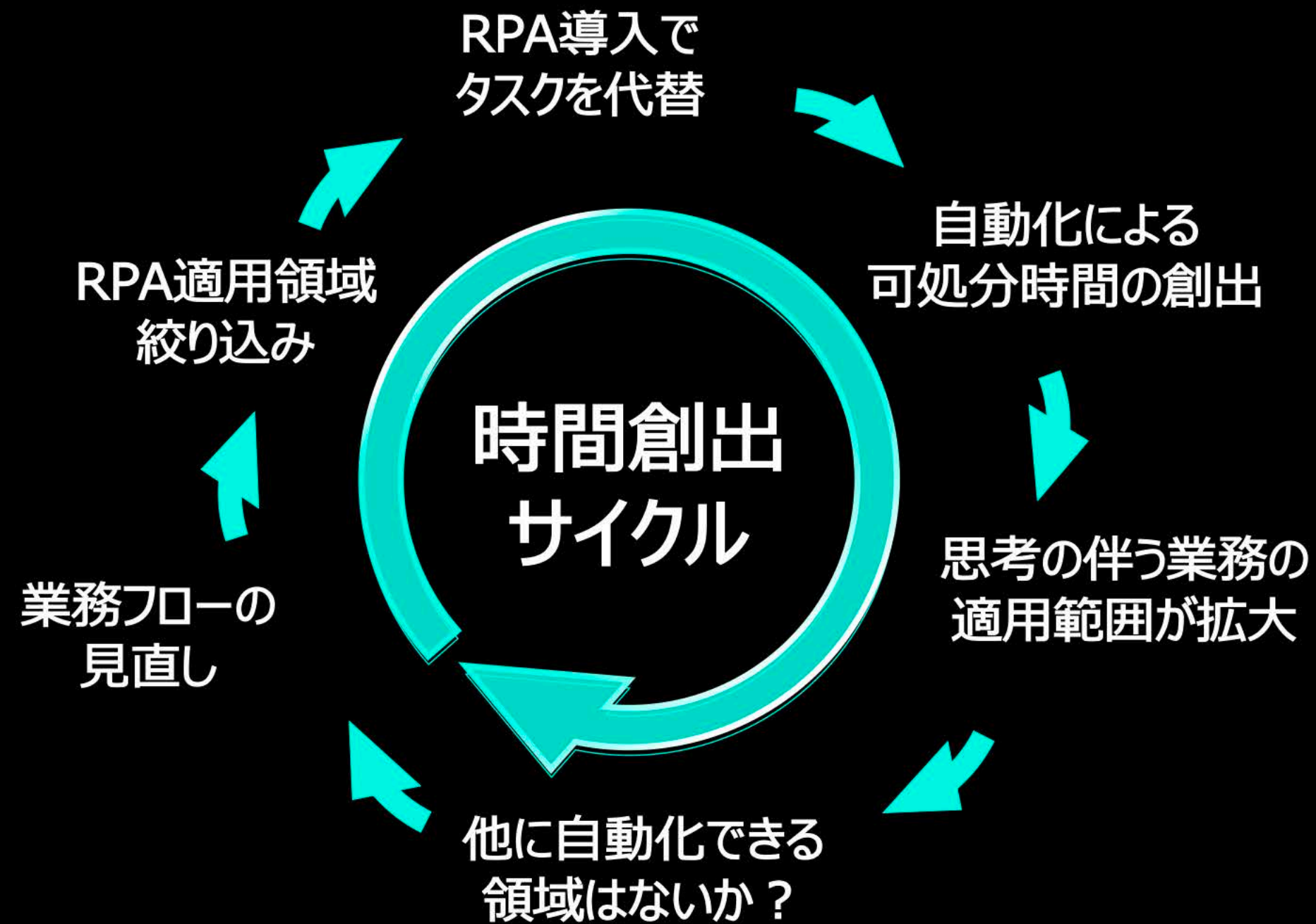
負のサイクルを好転させるには？

廃止
RPA化
外部化
簡素化
業務改革
インフラ再構築



まずは、オペレーション業務を 6 領域に区分し
RPA化領域のスコープを絞る

RPAによる 時間創出サイクル



意思決定の
必要度合い

時間創出
サイクル

時間創出
サイクル

時間創出
サイクル

時間創出
サイクル

時間創出
サイクル

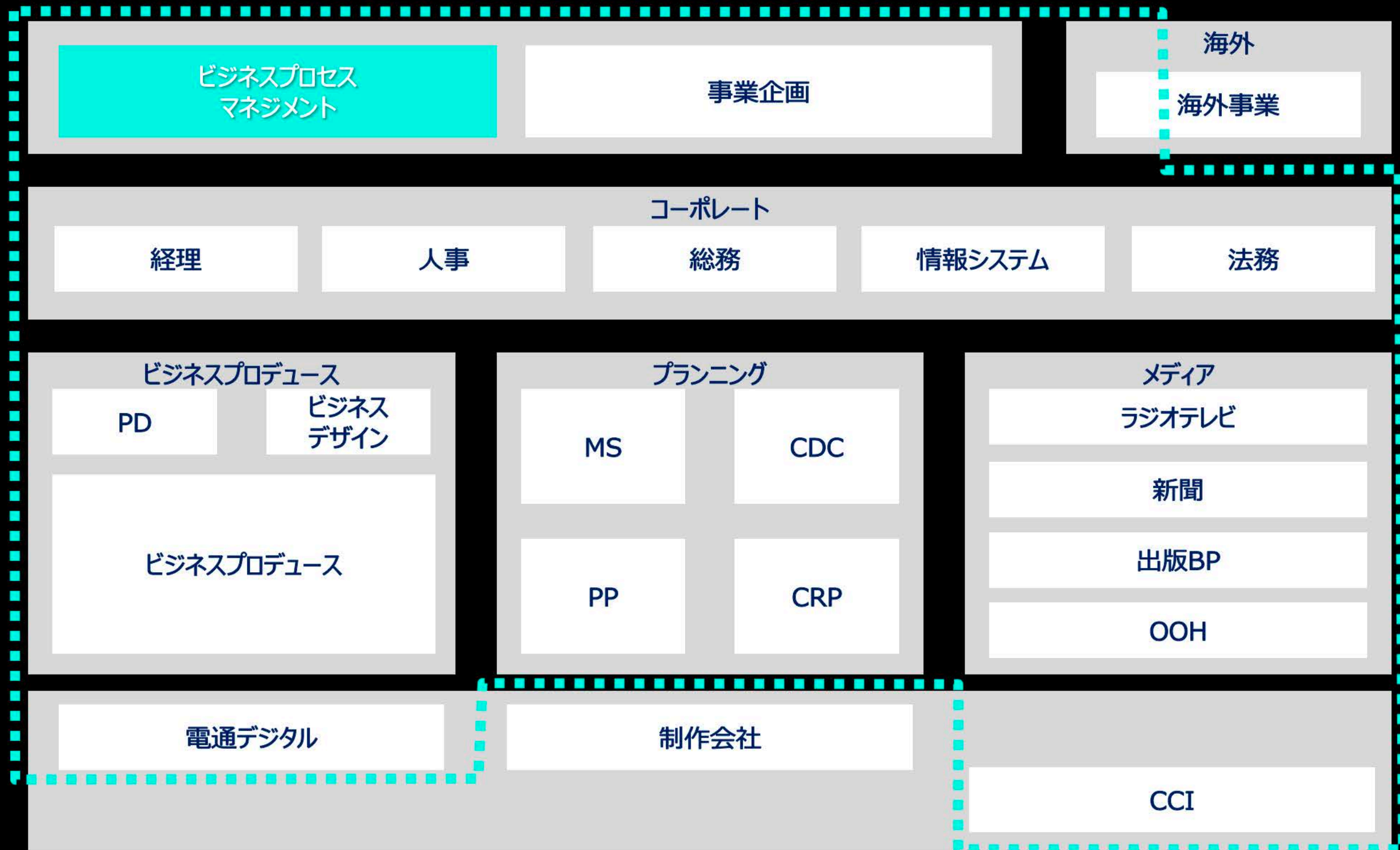
時間創出
サイクル

全社RPA導入を
ローンチヤーに完了

2017年に
400ロボ配属

難易度

どうやって RPAを導入していくか

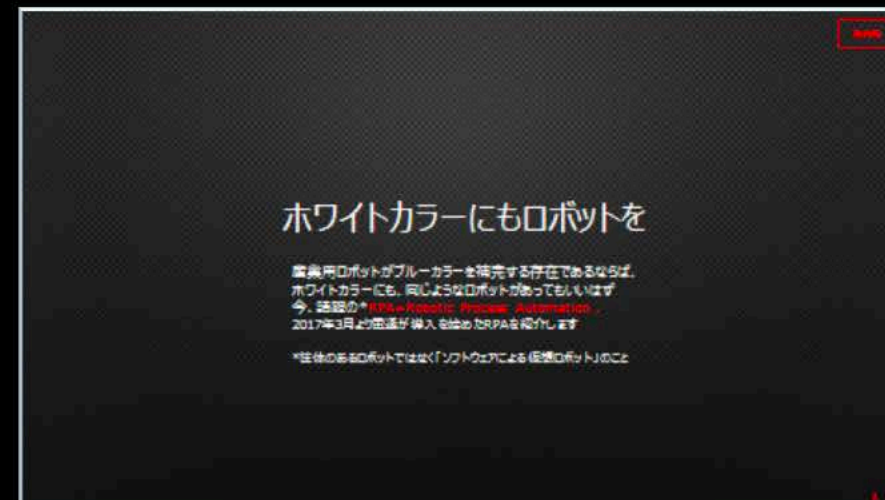


RPA化のスコープは全社

RPAイメージ動画を 活用した社内キャラバン



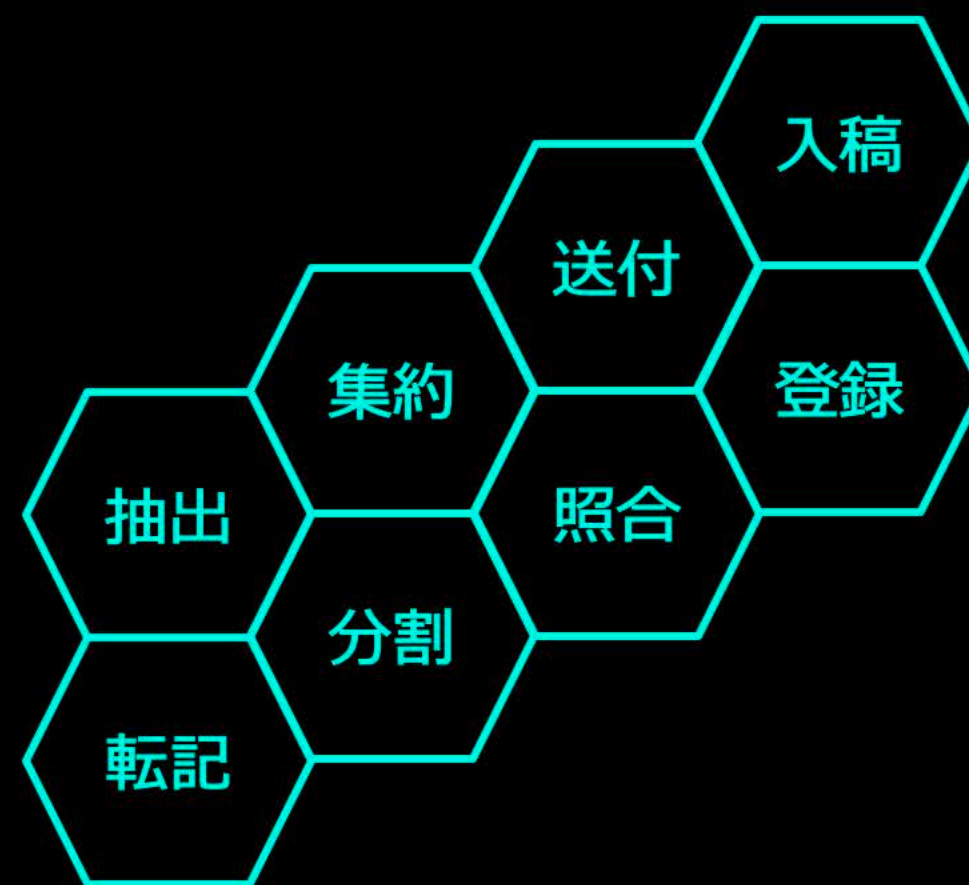
RPAの各種概要を 説明したカタログ配布



導入後のVOCを ベースにしたレポート配布



全社導入を果たすための社内PR



カタログ化

RPA化できる業務は何かを全社各部署で発見してもらうために、「**RPAの自動化技術を抽象化**」し、事例とともにカタログに記載

転記 Data Shift	特定フォーマットに多数の情報を書き移す際、ロボ用エクセルフォーマットで用意した情報ならば、転記作業を自動化できる
抽出 Data Extracting	特定フォーマットにデータベースの指定情報を一元管理する際、データ抽出作業を自動化できる
集約 Data Aggregation	特定フォーマットに多数の情報を一元管理する際、ロボ用エクセルフォーマットで用意した情報ならば、集約作業を自動化できる
分割 Data Dividing	特定フォーマットの情報を複製する際、ロボ用エクセルフォーマットで用意した情報ならば、分割作業を自動化できる
送付 Data Sending	情報を通知・共有する際、メール送付作業を自動化できる
照合 Data Comparing	可変する特定情報の評価・判定を一元管理する際、指定データベースにアクセスして最新ステータスを取得し、その照合結果を指定フォーマットへ自動で書き出す
登録 Data Registration	特定システムに情報を登録する際、複数の画面遷移を経て入力が行われるその煩雑さを解消するために、特定システムへの入力処理を自動で行う
入稿 Data Upload	特定ブラウザにデータを表示する際、ロボ用に用意したアップロード指示書を自動で読取り、指定ファイルとともに各ブラウザにアップロードする

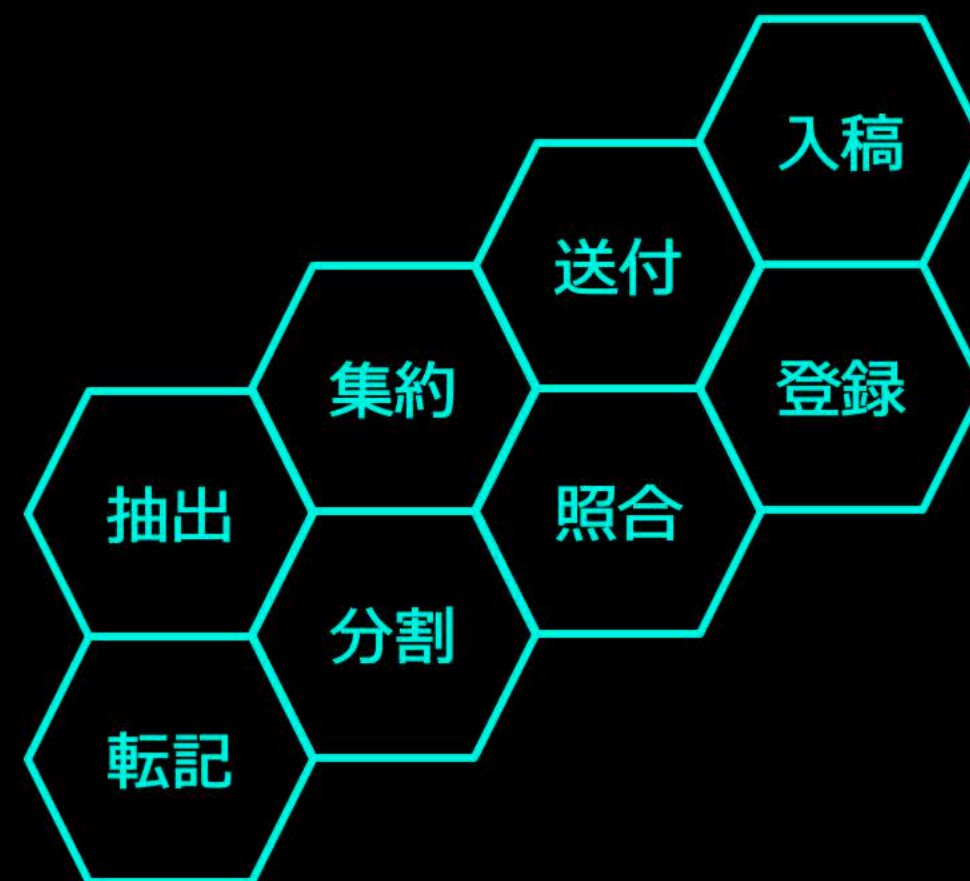
8タイプの機能の組み合わせで、実現した自動化技術をカタログに明記

RPAとはどんな自動化技術なのか

「具体的にその動きを可視化」

したほうがイメージがわかりやすい

イメージ動画制作



EX:視聴率レポート ロボ



RPA Robotic
Process
Automation

Pilot Task :

テレビ週間視聴率レポート
個人視聴率表の作成

RPA Pilot Task: Creating TV Weekly Individual Rating Report

ロボット人事部

ロボット戦略	ロボット配属	ロボットリソース管理
ダッシュボード化検討、PDCA推進/改善 難易度、カタログ管理 横展開方針の検討 分析(KPI、ロボットマイページ等)方針の検討	配属円滑化 配属・問い合わせ受付等の制度設計 性能/配属効果の評価制度設計 稼働状況、稼働内容の管理方針の検討	開発生産性（部品化/ナレッジ管理）/QCD改善 各社開発予実状況の可視化、分析 各社PGリソースアサイン状況・工数の可視化、分析 その他、開発管理に関する設計

どう配属・保守点検するか

どのような RPAを導入していくか

Phase 1
(FY-2017) 1

定型作業の自動化

入力作業
検証作業
複数システムへのログイン

構造化データ処理

マクロ技術

バックオフィス型

人手不足を解消
人材再配置のための可処分時間創出

Phase 2
(FY-2018)

一部非定型作業の自動化

知識ベースを活用した問い合わせに対する回答

人の介在による
アナリティクス

非構造化データ処理

AI

マクロ技術

ミドルオフィス型

例外対応や非定型業務に
関しては人間の介在が必要

Phase 3
(FY-202X)

高度な自律化

意思決定
複雑な処理

高度なアナリティクス

自律型AI

AI

マクロ技術

フロントオフィス型

人間はプロセス改善や
意思決定等の高度な業務に集中できる

リプレイスをへて自律化を目指す

～RPA戦略ロードマップ～

Phase 1
(FY-2017) 1

定型作業の自動化

Phase 2
(FY-2018)

一部非定型作業の自動化

Phase 3
(FY-202X)

高度な自律化

知識ベースを活用した問い合わせに対する回答

意思決定
複雑な業務

入力作業
検証作業

RPA as Replacement

RPA as Augmentation

RPA as Replacement

人手不足を解消
人材再配置のための可処分時間創出

例外対応や非定型業務に
関しては人間の介在が必要

人間はプロセス改善や
意思決定等の高度な業務に集中できる

リプレイスをへて自律化を目指す

～RPA戦略ロードマップ～

RPA + AI

優先順位や競合・隣接排除を各アルゴリズムで最適化し、各種広告枠に最適なCMをアロケートするためのゾーンを絞り込む

過去の高視聴率広告枠と実績CM素材の関係性から、最適化されたゾーン内の高視聴率広告枠を機械学習により予測し、各高視聴率広告枠に最適なCMをアロケートする

Ex:最適広告枠へのアロケーション

RPA + AIだからできるTVオンライン時代に必須の拡張技術

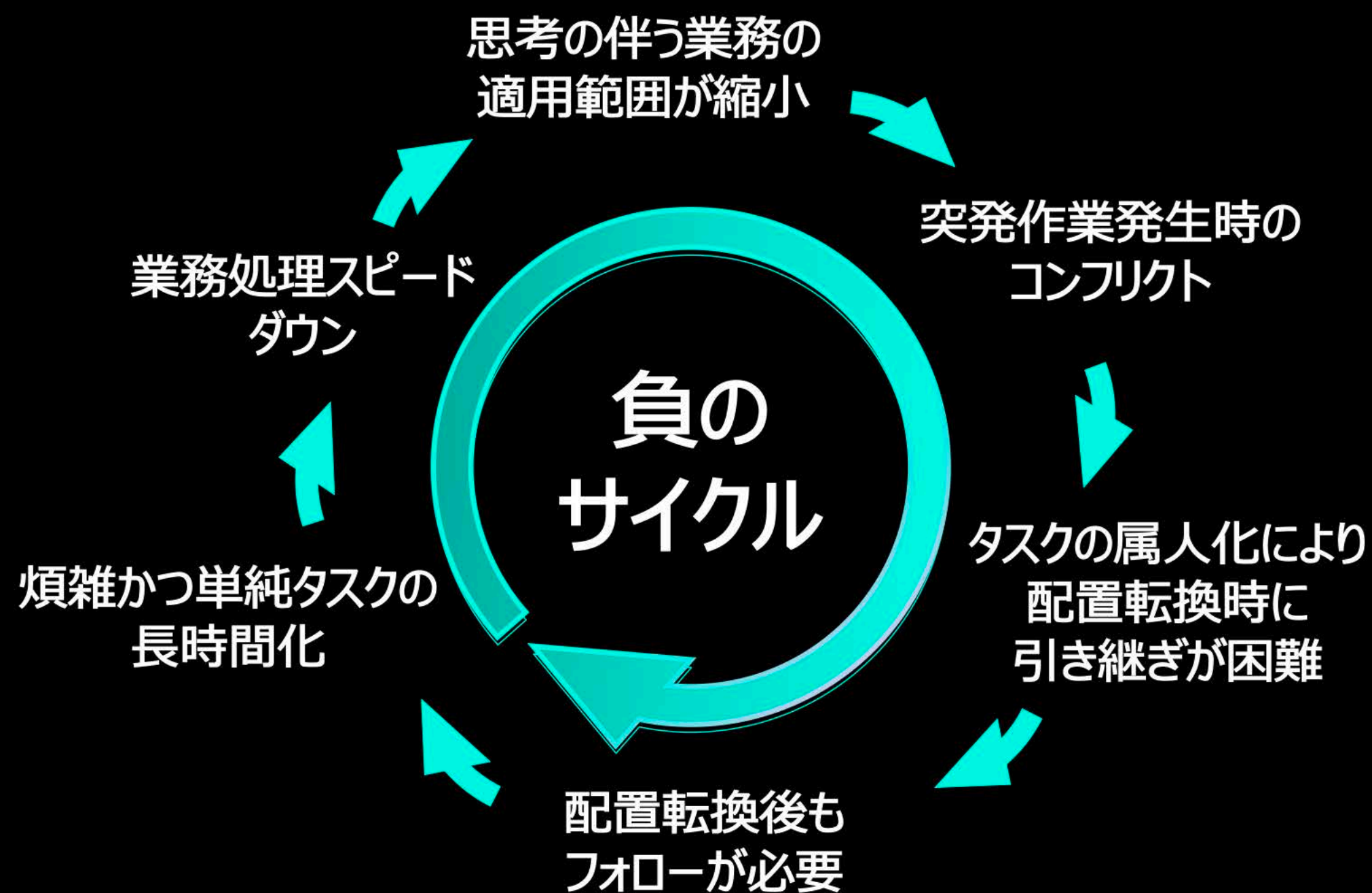
Why → How → What

可処分時間創出の結果、 自発的学習により クリエイティビティを 自発できる人材をつくる

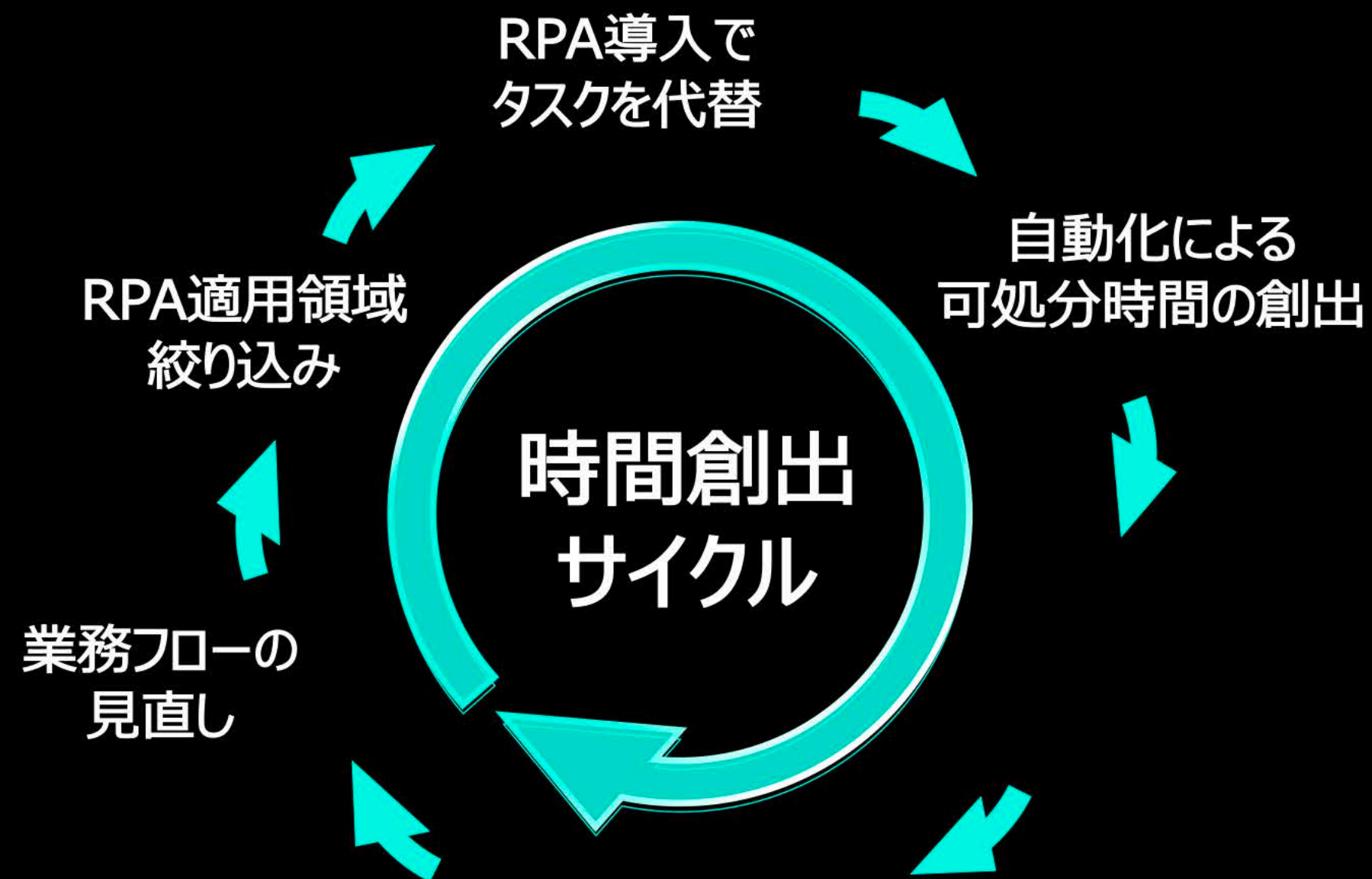
簡単に課題解決できる世の中にはない
目標設定や成果主義は崩壊の兆しも

一筋縄ではいかない課題に対し、
これまでの考え方が通用する領域は
日に日に狭まっていく

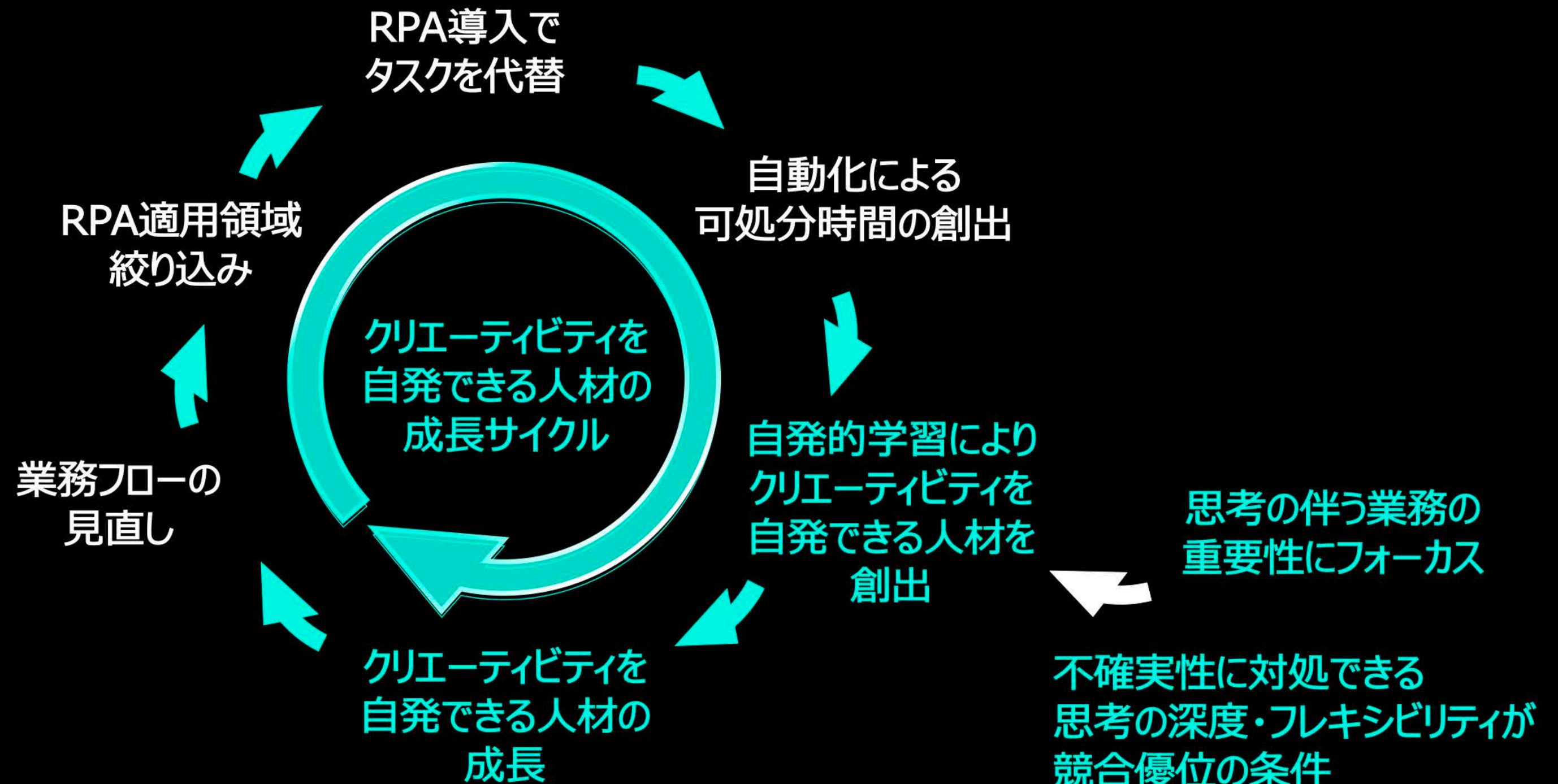
オペレーション業務の肥大による 負のサイクル



RPAによる 時間創出サイクル



クリエイティビティを 自発できる人材の 成長サイクル



そのミッションは 私と世の中のためになる

だから、好奇心を燃料に
自発的に学習する人材は活躍する

リスクを恐れず伝統的な手法に
とらわれないよう
自ら働きかける人材を創出した上で

皆様の課題解決に挑む

7000人の人材を よりオーギュメントできるか

時代とともに進化していく先進のIT技術を
縦横無尽に組み込んでいく、

迅速なIT投資が、組織改革には必要

1人1人を拡張するための武器として
RPAやAIを惜しみなく導入し
7000人をよりオーギュメントしていく

ありがとうございました